

令和 7 年 2 月 12 日 開 会

令和 6 年度第11回教育委員会定例会会議録

垂水市教育委員会

令和6年度 第11回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和7年2月12日（水）	教 育 長 坂 元 裕 人	教育総務課長 草 野 浩 一
午後2時 ↓ 午後4時29分	教育委員 明 石 浩 久	学校教育課長 川 崎 史 明
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	社会教育課長 大 山 昭
	教育委員 福 里 由 加	

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、令和6年度第11回教育委員会定例会を開会した。

報告第1号及び報告第2号については、非公開で審議し、その他事項の(2)、(3)、(4)については、非公開にする旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

2 前回会議録の承認について

令和6年度第10回教育委員会定例会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

3 議 事

報告第1号 令和6年度垂水市一般会計補正予算（第8号）案についての市長への意見申出について

報告第2号 令和7年度垂水市一般会計当初予算案についての市長への意見申出について

議案第1号 第4期垂水市教育振興基本計画の決定について

4 その他

- (1) 日本 ICT 教育アワード表彰について（報告）
- (2) 令和7年度「垂水市の教育」基本方針（たたき案）について
- (3) 卒業式入学式の出席について
- (4) 令和7年度教育委員会定例会の日程（案）について

5 動議の討論等

6 委員並びに教育長及び課長報告

7 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案等理由	審議の状況	採決の次第
報告第 1 号 令和 6 年度垂水市一般会計補正予算（第 8 号）案についての市長への意見申出について	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 29 条の規定に基づき、市長から教育委員会の意見を求められたが、急施を要したため、教育長の臨時代理により意見の申出を行ったことを報告するもの		承認
報告第 2 号 令和 7 年度垂水市一般会計当初予算案についての市長への意見申出について	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 29 条の規定に基づき、市長から教育委員会の意見を求められたが、急施を要したため、教育長の臨時代理により意見の申出を行ったことを報告するもの		承認
議案第 1 号 第 4 期垂水市教育振興基本計画の決定について	垂水市教育委員会の行政組織等に関する規則第 11 条第 1 号の規定に基づき、会議の議決を求めるもの	特記事項なし	修正可決

議 事 内 容 等

3 議 事	
教育総務課長	報告第1号 令和6年度垂水市一般会計補正予算（第8号）案についての市長への意見申出について （非公開） （承認）
教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長	報告第2号 令和7年度垂水市一般会計当初予算案についての市長への意見申出について （非公開） （承認）
教育総務課長 学校教育課長	議案第1号 第4期垂水市教育振興基本計画の決定について （資料に沿って説明）
明石委員	19ページの変更比較表のところですが、「食育と安全・安心な学校給食の推進」の「現状と課題」で、最終案として追加した文言の最後「…おります。」とありますが、ほかの文章については全部「…います。」で終わっているのです、「…います。」で統一したほうがよいのではないかと。
教育総務課長	ご指摘のとおり修正いたします。
明石委員	あともう一つ、16ページの文言等の整理のところ「人権教育」という言葉を追加されていますが、その後に続く語尾が「を育成する」となっているのです、「人権感覚」の方がよいのかなと思います。
教育長	「人権感覚」あるいは「人権意識」とかいうことですね。 そのとおりですね。「人権感覚」にしましょう。ありがとうございます。 （修正可決）
4 その他	

学校教育課長	日本ICT教育アワード表彰について（報告） （資料に基づき説明）
学校教育課長	もう一つ、大きなものとして、ICT CONNECT21という団体が主催している「教育DX推進自治体表彰」というのが別にありまして、そちらの方でも表彰を受けております。 そちらの方は3月の13日に、やはり東京の方で表彰式がございますので、指導主事の方で参加をさせたいなと思っております。 併せて、その日に、先ほどご説明しました文部科学省の研究開発学校指定校として1年前に取組を進めている宮城県の宮城教育大学附属小学校の方に視察に行って、「どういう取り組みをしているのか」を研究させてみたいなと思っているところでございます。
教育長	ちなみに、このICT教育は、一昨年受賞し、去年はなし、今年また受賞と2年ぶりでした。DXの方は2年連続というところで、本市の取組は本当に全国区と言ってもいいぐらいです。 いずれにしても、このように大きな賞を3年間ずっと継続していただいているということは、ありがたいことです。
教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長	令和7年度「垂水市の教育」基本方針（たたき案）について （非公開）
教育総務課長	卒業式入学式の出席について （非公開）
教育総務課長	令和7年度教育委員会定例会の日程（案）について （非公開）
教育総務課長	総合教育会議での意見交換会のテーマについて （非公開）
5 動議の討 論等	

福里委員

この時期になると、「あのクラスが荒れている」とか、「あの先生が休みになったんだって」とか、そういうのをよく聞きます。

今年に関しては、「何年生と何年生と何年生の学級が、ちょっとうまくいっていない」とか、「その学級の子供が先生に対して暴言を吐く」とか、そういうのをよく聞いていて、何日か前も小学校中学年の子だったのですが、その子の保護者から「いじめに遭っている」と聞きましたが、その子は負けず毎日学校に行っているから「偉いな」と思いました。

何で意地悪をされているかという、顔には全然出ていないのですが、ちょっと節々にアトピーがあって湿疹が出たりとかしていて、それが「きもい」とか言われるみたいです。

学校の先生に言ったらしいのですが、その保護者が言うには、「学校の先生じゃ何も解決できない」とおっしゃっていました。

先生が、その子や児童一人一人に対して言うらしいのですが、先生が怖くないのか何かわからないのですが、全然よくならないということで、その保護者の方が、直々にその子の親に電話をしたということがあったらしいです。

私は、その先生はすごくいい先生だと思っているのですが、「あの先生は、問題の解決ができない」とその保護者の方には言われています。

また、その子は女の子に対して宿題をさせるらしく、クラスの周りの子から、この女の子に「先生に言ったら」と言ったら、「先生に言ったらって意味がないって」と言っているみたいです。

結局、先生は怖くなくて、その子からのあとの仕返しの方が怖いものだから「言いたくない」と言っているみたいで、そのことも保護者が直々に言って、子供に「私の娘に宿題をさせないでね」と言ったら、その子は、シュンとなるわけじゃなく、「宿題も多くて、俺も大変なんですよ、だからさせているんです」みたいな感じで言うらしく、何も変わらないみたいです。

教育委員会の方も把握されていると思うのですが、学校も対応されていると思うのですが、子供が少なくなっているのに、そういう案件がすごく増えてきているように感じます。

また、この前の新1年生の説明会のときも、「舞台に上がらないでください」と言われているのに、40何人しかいないのに、走り回ったりとかしている子供がいて、注意を守らせている親からすると「舞台に上がらないでください」と何度も教育委員会の先生が言っているのに、親は注意もしないで、こっちでぺちゃくちゃ話をしているので、どうすればいいんだろうなと思ってしまいました。

この教育振興基本計画を見ていて、教育の基本方針に「知」・「徳」・「体」と書いてありますが、今の親は、例えば、小学校に上がる前に「うちの子はひらがなが読める」とか「カタカナまで読めるんです」とか「知」だけを求めている。そこではないと思います。

そのことは学校に行ってからでもいいことなのですが、そこにちょっと重きを置き過ぎてしまっているところが、友達に対して、なかなか思いやれないというか、いじめられているところのお兄ちゃんが、たまたまそのいじめ子と会って、「僕の弟をいじめないでね」と言ったらしいん

	ですけど、「いやあ、不審者がいる、不審者に声をかけられた」とか、そういうレベルなんです。そんな子がちょっと増えてきているのかなあと感じています。 それこそ、年配の先生のクラスが荒れてしまったりとか、先生はベテランなのに、今までやってきた指導ではダメなのか、何か先生だけが弱いものになってしまっているというか、そこを子供がわかっているというか、それぐらいするレベルじゃないのかなと私は思っています。 幼稚園でも、幼稚園に上がる子でも、昔は「何とかちゃんのお母さん」とか言っていたのですが、今は、子供はお母さんの名前を呼んだりとか、大人に対して、下の名前と呼ぶ。 子供が大人に対して、友達みたいな感覚が強いのかなとっていて、それもすごい気になるところです。お母さんが「何とかちゃん」というから、子供も「何とかちゃん」といったり、大人に対しては、言ったらいけない、大人に対して、そういう言葉遣いしたらいけないというのをわからない子供が多いと感じています。 「先生に言ったって意味がない」という言葉をよく最近は聞きますし、先生が注意をしても効果がないというか、子供は先生が怖くない。 なので、これから学校は、どういうふうに対応したらいいのか皆さんの考えをお聴きしたいです。
教育長	学校教育課長は、今の話を聞いてどれぐらい中身がわかりましたか、あるいは、情報として得ていた部分ありますか。
学校教育課長	今のお話をお聞きして、「わからないことではないな」、「あり得る話だな」と思います。 具体的な事例としては、私の方には、まだ報告が上がってきておりませんけれども、心が育っていない子供さんがいらっしゃって、保護者の方と話をするけれども、保護者がそのことをうまく理解してくれない。それで、ちょっと言葉遣いとか、対応を間違ってしまうと逆に、先生の不足しているところとか、学級経営力のなさとかを、逆にこう突っ込んでくる。 結局、子供の話でスタートするのですけれども、そうじゃないところで、保護者の怒りが来て、こっちは置き去ってしまう。 そして、そういう様子を見ている子供は、悪いまねをしてしまう。お母さんが文句を言えば、この件はもうなかったみたい。そういう悪い学びをしている子供さんが、少しでてきているような感じはします。 いつも教育長が「やっぱり家庭教育が大事だよね」というのは、そこだと思います。 だから、それも例えば、中学生の保護者にしても、それはもう遅きにきしているのかなと思います。 割と早い段階で、「家庭教育とは何ぞや」とか、子供を小学校に上げてきて、例えば、具体的にトラブルが起こったときには、親としてどんな心構えで、学校と接するべきなのかとかいうのは、どっか早い時期に教えてあげないといけないのかなとは思っています。 他のどこの学校でも悩みです。そこは大きな学校だけじゃなくて、小さな学校でもあり得ることで、今起きていることです。

教育長

保護者は自分の子供の言うことを鵜呑みにして、相手の言い分を聞こうとしない、こういう親が非常に多いです。非常に被害意識が強い。

逆に、そのことは学校に対するクレームだったり、保護者に対するクレームだったりして、うまくいかない事例が多々あるような気がします。

私が最も懸念しているのは、保護者が平気で「学校批判」、「担任批判」を子供の前でする。それでは子供は言うことを聞くはずがないですよ。

先生方の悪口を言う、これはもう最低です。これは思っていると言っても言ってはいけないことです。

子供が寝静まってから、お父さん、お母さんでこっそりそういう話をするならいざ知らず、子供の前で「担任はダメだよ」みたいなことを平気で話をする。だから、子供はそのまま親が言うことを学校で担任に「先生ダメなんだよ」みたいなことをぶつけていう。

教員が疲弊していくはずですよ。だから、保護者教育というのも非常に大事だと思います。

つまり、今、保護者になりきれない保護者がいっぱいいるということです。しかも、幼稚園の段階からいうならば、さっきおっしゃったように友達感覚じゃないですか。子供が保護者に名前呼び合うなんてことは、あり得ませんよね。どこかで線を引く、ということを、きちっと子供にも理解・納得させないといけない。それが全然できていない。

だから、平気で、そのラインを飛び越えて担任に文句を言ったり、いろんなところに攻撃的に出たりという、そんな子供が、今、本当に多いです。

しかも、低学年からそういうことが始まっているものですから、良くなればいいのですけれども、その子らは、ずっと6年間よくなるままに上がっていく子もいるわけです。そうすると、中学校では学習どころじゃない。いい子はいいい。すごくいい子はいいます。いい子はいっぱいいます。

ところが、中間層がいたり、あるいは芳しくない子供がおれば、そちらの方へなびく子供たちも結構います。そういうところから変えていきたいなと思いますけど、なかなか難しい。これは、本市だけではなくて、全国どこでもある話です。結果、子供が不幸になっているという話をよく聞きます。

だから、例えば、「家庭教育学級」というのがありますけれども、そこで、保護者は「わが子をこういうふう育てていこう」という家庭の方針みたいなものを、きちっと学んでいるのかなという疑わしいです。

だから、親が親業を学ぶ場が極めて少ない。今、親のあるべき姿みたいなことを親が学んでいない。要するに、その子供に対してきちっと教育ができてないからです。さっきおっしゃったように、本当に友達感覚です。ここを打破したいなと思うのですけれども、実際ここはなかなか難しいなと思います。そういうところは、関心がないのです。本当に嫌なことは避ける、下手すれば、なかなかPTA活動も出てきません。

コロナ禍前からそういう風潮があったのかもしれませんが、コロナがそれに拍車をかけたような気がします。割り切って言えば、「もう行かなくていいのは、行かないでいい」。悪い意味の「行ってもそんなのはしなくていい」みたいな感じで。

ですけれども、もう一度、教育を立て直さないといけない時期に来ています。これをこのまま放置していたら、本当に心配なのですけれども、いつか教育崩壊の時期がくるような気がしています。

学校教育課長	先週でしたか、市の子育て支援センターの方から全く同じようなことを言われたところです。 支援センターの方もこのことを最近すごく感じていて、早い段階で、特にお母さん方に、小学校に上がるまでにきちっと「気をつけて欲しいこと」を、今の若い保護者の方に何か話をして欲しいというような依頼が来しました。 私なんかは、いつも同じようなことを教育長と語っていて、「今、すぐでも必要だよな」と思っていたのですが、今年度はちょっと日程の調整ができなくて、「来年度に、これを早い段階でやってみましょうか」ということで、今、お話をいただいているところです。 至るところでそういう教育に関わる、あるいは子育てに関わっている人達が課題意識を持っているというのは、確かなことなのかなと思います。
教育長	今おっしゃったようなそういう研修、学びの場を作っても出席されない人達があります。問題はこの人達なのです。「いい人はいいい」、「できない人はできない」という二極化です。学力と一緒に、家庭教育力の二極化、これが顕著です。 先ほど来、この話を聞いていて今思うことは、我々が行政としてできること、学校と連携しながらできること、というのは、学校教育課長がおっしゃったような早期の研修とかで、これは幼稚園、保育園とも連携をしながら、ということになりますけど、そういうことの必要性というのは確かに感じます。 いい子は、いいですから。「わあ、どんな家庭教育をすれば、こんないい子が育つのだろう」という子はいますよ。中学校を見ても、小学校を見ても、そういう子がいる一方で、非常に課題を抱えている子は、逆に今は多すぎます。だから、そんなふうに見えてしまうように見えてしまう。でも、しっかりとした考えを持って、そして、学んでいる子もいるし、親は親として、しっかりと子育てをやっている人もいます。
福里委員	「何年生は」とか、何年生というくくりできますよ。できる子がひとくくりにされて、かわいそうというのもあります。 幼稚園では、体験活動を親子で活動しようといういろいろ計画していますが、子供は行きたいけど、親が面倒くさいから行かないという人も結構いらっしやいます。 昔は、「私は行きたくないけど、子供が行きたいというから、ついていこう」という感覚だったのですが、今は、「何で来ないの、来ればいいよ」と子供に言えば、「だって、ママが行かないっていうから」と返事が返ってきます。子供がそういう理由で我慢をしていることが多くて、「ママに行くって言えばいいよ」と言えば、「いやだって、ママはそこは行きたくないから、代わりにイオンに連れて行く」とか、その代わりにものを親が持ってくるんです。 でも、やっぱり「親子でする体験って全然違う」と思うのに、そういう感じになっています。「きついことは、いや!」と。 この前の植樹祭にしてもダメだったのですが、子供が「親子で行きたい」と言うけど、「ママは寒いから行かない」と言っているとか、もうそ

教育長	んなの話がいっぱいです。「子供のために」というところがないです。 子供がお利巧なのか、今は反対です。「家ではお利巧で、幼稚園で発散する」、そういうことが普通というか、そういう子が増えてきています。 先ほども「小1プロブレム」の問題が出ていましたけれども、これはそうなるはずです。 こう言っているけど始まらないので、そこは何か打てる手を打って行きましょう。 課長、それぞれ社会教育課からのアプローチもあるだろうし、体験活動も親子でとか、いいものが、いっぱいあるじゃないですか。 そういうものも組み合わせながら、何とか親・子を変えていくような、何か取り組みをやっていかないといけないということを改めて思いました。中学校になってからは遅いですから、やっぱり、小学校のうちです。
明石委員	先ほどの教育振興基本計画を見ていて、31ページの「ルールやマナーについて」の「学校の決まりを守っていますか」という質問のところで、中学2年生は95%が「守っている」というのに対し、小学校6年生は「守っている」が68%しかなくて、「わからない」が30%、「わからない」がいけないんですよね。許されないんですよね。 小学校段階で、きちんと教えていかないと「いいんだ」で済む。こうなってくるのだろうと思います。 教員をしていた頃、授業をしながら「ダメなことは、ダメ」ということと同時に、かねての言葉かけと人間関係を作っていくながら、3学期ぐらいになったら、そんな子も近寄って来るようになります。 先生は、すぐには解決できないと思います。時間をかけても、その段階までになると、親はなかなか関わらないので、そんなことしながら子供たちの心をちょっとずつ変えていく、時間をかけて子供の心を変えていかないと変わらない、自分との関係性の中で変えていくしかないのかなと思っています。 だから、この「学校の決まりを守っていますか」の「守っているか、わからない」の3割をもっと減らさないことには、どうしようもないのかなという感じはしています。
教育長	今、おっしゃったように、中学生は、最後はわかってはくれるのですが、早ければ早いほど、いいのではないかなと私は思います。そのためには、もう膨大なエネルギーと時間がかかる。 それよりは、やっぱり幼児期です。まさに、早い段階で「ダメなものは、ダメ」ということが、子供の中にしっかりと腑に落ちることが大事なのかなと思います。 だから、親はきちんと面倒を含めて、自分の行動にも責任が持てるよう、子供を育てていくために親が変わらないといけないのです。親がしっかり線を引けるとか、参加するべきものには参加して、しっかりと子供に体験させるとか、そんなことを繰り返して、重ねていくしかないのかなという気がします。よく頑張っておられる家庭にどんどん影響を受け、そのいい影響を受けて、変わっていくというところしかないのかなという気がします。全体で変えていくしかないです。

	重たいテーマでしたが、明日の総合教育会議でもこのことは話題になるかもしれません。ありがとうございました。
6 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
明石委員	1月27日に「第6回垂水寄席」を楽しませてもらいました。外は雨模様の寒い日でしたが、会場の中は大きな笑いに包まれていました。私同様、毎年楽しみにしていらっしゃる方々も多いかと思います。運営など大変な面はあるかと思いますが、今後も継続して開催していただけたらありがたいと思います。併せて、おもてなし隊の子供たちがチケットを切り取ったり、来場者を席に案内したり、控え目ながら丁寧な言葉遣い、態度で活動している姿に改めて感心いたしました。会場の雰囲気をお優しくしてくれるとともに、この子供たちにとっても、将来生きていく上での大事なスキルを身につける貴重な機会だと思うことでした。 2月7日には「垂水市さわやかあいさつ運動推進協議会」に出席しました。会の中で日頃感じていることなど話をさせていただきました。 運動公園は、朝きますと通学途中の自転車に乗っている高校生が、「おはようございます」と挨拶しながら通り過ぎていきます。休日に野球の練習をしている子供たちもよく挨拶をしてくれます。ウォーキング中の大人の方々とも明るい挨拶を交わしています。家の近くで出会う技能実習生の皆さんに「こんにちは」と挨拶をすると、「こんにちは」と笑顔が返ってきます。 さらに、垂水中央中学校の前の国道の信号機のない横断歩道を渡る中学生は、渡り終わった後に、止まってくれたドライバーにしっかり一礼してくれます。協和校区でいうと、内田菓子店の下の押しボタン式信号機のある交差点を渡る子供たち、小学生は青信号なのに渡った後、振り向いて止まってくれたドライバーにきちんと頭を下げられます。垂水の国道は、本当に、数えてみると、数え切れないぐらい横断歩道が多いです。その中でも信号機のない横断歩道も非常に多いのですが、市内のあちこちで子供たちがドライバーに頭を下げる様子を見て、「本当にいいことだな」、「いいまちだな」ということを実感しています。 中央中にいたときに、生徒たちが廊下ですれ違うたびに、「こんにちは」、「こんにちは」と、またすぐに戻っていくと、また「こんにちは」と挨拶をしていました。このことを職員が「校長先生、こんにちは、こんにちはと言っていますけど、どんなもんですかね」と言ってこられ、「いや、あれをやめたらね、挨拶に陰りがでるから」と継続させたことがありました。 本当は、豊かに育った心から発せられる挨拶が一番いいのだと思うのですが、それでも、「あいさつ」という形を整えていくことで、子供の心が豊かに育まれていくという一面もあるかと考えています。 教育振興基本計画の今後の目標にも、おもてなし隊のこととか、あいさつ運動のことが掲げてあります。ふるさと垂水がもっともっと良いまちになるよう取り組みを推進していかなければいけないと思うことです。 以上です。

教育長	ですね、形から入って、そして、きちっとまた豊かな心が築かれていく。ありがとうございます。
田之上委員	学校運営協議会がありました。中学校は会が重なり、出席できなかったのですが、垂水小学校へは出席しました。2学期以降の学校の様子、子供たちの様子を伺い、令和6年度の学校評価アンケートの結果、それから令和7年度の学校経営案についての説明を聞きました。その後、情報交換をしましたが、学校の方からは、2学期行事が多くて、子供たちの様子がちょっと気になりますというお話を受けました。 それから、委員の方の方からは、登下校時の車の送迎がすごく目につきますということでお話が出ました。これについては、中学校でも話が出たそうで、小学校も中学校も取り組みをしていかなければいけないということでした。そして最後に、令和7年度の学校経営案を了承して終わったところです。 また、学校の今後の在り方を検討する会の設置については、垂水小学校も、後日資料いただいた垂水中央中学校からも、「必要である」という意見が半数を超えていました。 アンケートの記述回答をちょっと読んでいたのですけれども、すごく貴重なご意見がたくさん出ていて真剣に考えてくださったのだなあというのを感じました。 それから、私も自主文化事業の落語公演会に行きました。鹿児島出身の2人の師匠の語りは、ふるさとの方言や様子をふんだんに盛り込まれて、笑い通しの時間でした。話の中に、あちこちからいろんなプロセス情報を盛り込みながら、決まった時間にきちんと終わるという「さすが話のプロだな」と感心しました。お子さん連れのご家族も見受けられ、子供さんには少しわかりづらい言葉もあったかもしれませんが、生の話を聞くことで、いい経験になったのではないかなと思いました。以上です。
教育長	登下校のことが出ましたけれども、これもやっぱりなかなか難しいです。福里委員は送り迎えをされているのですか。
福里委員	いや、うちはもちろん歩いていくのですが、帰りは習い事があると間に合わないので迎えに行きます。
教育長	小学校、中学校一斉に取り組んでみることもまた大事かもしれませんね。つまり、車での送り迎えをやめてみるとずいぶん変わるでしょうね。
福里委員	うちの子が小学1年生に上がる前の入学説明会のときに、当時の校長先生が「6年間歩いてきた子と、歩いてこない子は、大分差がつけます」と言って、「歩いてきてください」と言われた校長先生がいらっしゃいました。それでも今年の1年生は、よく歩いています。黄色のかばんの子をすごく多く見かけて、「よく歩いているなあ」と思っていますが、やっぱり送り迎えが多いです。それこそ中学生も送ってもらっています。

教育長	これも何とかしたい課題の1つですね。
福里委員	3学期に入り、学校の方も忙しくなっているようです。子供は中3なので、受験で特に忙しく過ごしていました。 私立の入試も終わり、続々と進学先がみんな決まってきている中、先日は何か学校で生徒指導があったらしくアンケートをとられたようです。 先生の方でも入試で神経を使うこの時期にしないでいい苦勞されているようで「本当に申し訳ないな」と感じました。 あと、公立高校受験する子もいると思うので、周りの子供たちにも配慮を忘れずに、うちの子もですが、過ごして欲しいなと思います。 下の小学校の子は、この前タブレットを持ち帰ってきて、タイピングの練習をしていました。ローマ字がすごく苦手で、なかなかだったのですが、私よりもずっと早く、上手に、タイピングをしていてびっくりしました。「なんでそんなにできるの」と聞いてみたら、担任の先生が「練習できるアプリがあるよ」と教えてくれて、そのアプリを使ってすごいスピードで打っているの、「すごいな」と感じました。 そんなふうに、先生がいろいろ子供たちに合った方法を教えてくださって、「すごくいいな」と感じました。 垂水小学校は、そういうところにちょっと遅れている感じがあったのですが、そういうふうにいろいろしてくださって「ありがたいな」と感じました。 そのタブレットの関連で、保護者から聞いたのですが、高学年がタブレットを使用している授業を見に行ったときに、私も学校訪問に行ったときに思ったのですが、タブレットをするときの姿勢、そのお母さんは、グループに分かれてする授業だったらしく、直に床に座ってタブレットを打つときに体育座りをして打っていて、「あの姿勢はどうなのかなあ」と言われていました。 うちの子もそうなんですけど、持って帰ってきてソファに座っていると、どうしても、なんていうのかな、姿勢がまっすぐにしないで、背中が丸まってするので、使うことだけじゃなくて、姿勢についても先生から話をしてもらったりとか、してもらえると嬉しいなというふうに思いました。 また、そのクラスでは、授業に関係のない休み時間も使用していたらしくて、メリハリをつけてもらえるといいなと思いました。以上です。
教育長	タイピングも確かにゲーム感覚でやると子供たちは伸びが早いですね。今、おっしゃったタブレットの姿勢、それはおっしゃる通りです。そこはまた学校教育課長、どっかで指導していきたいと思います。 では、私の方から、もう皆さんがおっしゃったことと重なりますけれども、少し裏話も含めて。 まず落語です。楽しんでいただいて、本当ありがとうございます。 でもあの裏で、どんだけ400人超えるのに、私も含めて、社会教育課が難儀苦勞したか。 今回、6回目になります。「笑点」のネームバリューも落ちてきている

ところもありましたが、落語家も鹿児島ゆかりだから、大丈夫だろうと思っていたのですが、難しいさがそこにあって、しかも、そのあとに入ってきた青山学院の原監督の方が、ずっとネームバリューというか、勢いがある、すでに軽く600越えです。これはどっかで制限をかけないといけななというぐらいの勢いです。人選でこうも違うのかというところと、やっぱり時期ですね。自主文化事業の難しさを年々感じるところです。

その中で、社会教育課は頑張って400人超えを達成してくれて、ありがたいなと思います。

次に、人事異動です。いよいよ始まって、大きな山を越えたところなのですけれども、私が考えているのは、やっぱりGIGAスクールなのだろうなと思うのです。

ここを先進地としての武器、これを強みに希望してきてくれる、そんな地にしたいなというのは私の思いです。

そして、GIGAスクールを学んで指導力をつけた職員が、また次のところで、頑張るといういい流れを改めてまた作りたいなと、今年度の、また人事異動として感じたことの1つであります。

市内で一生懸命頑張ってくださった管理職をはじめ先生方には、もう本当に心から感謝を申し上げたいですし、また次のところで、次のポジションで頑張っていただければ、ありがたいなというところです。

3点目は、今日、令和7年度施政方針の記者発表が行われました。

来年度の予算についての大枠について、市長がどういうところに力点を置くかというような話をされました。

教育委員会で言うと、GIGAスクールもそうでしょうけれども、夢の翼、これ私、すごくクエスチョンマークがつくところでもあるのですけれども、先ほど学校教育課長の方からも台湾というところが出ましたが、果たして、台湾と手を挙げたときに、保護者が本当に背中を押すのだろうかというのは、常に疑問符として私はついて回ります。

つまり、ニーズがあるのかということです。台湾に行って、台湾は確かなによかったと、もちろん親日派は多いし、そして、まあいうと英語力も高く、学ぶものもいっぱいある、かつ、となりの鹿屋なんかも非常に台湾との交流は盛んで、いいわけです。

ですので、行く価値のあるところであるのは間違いないのですけれども、本当に鹿屋同様に押してくれるのかというところはどうかかなと思っています。特に、トランプ政権になってから、中国情勢というのは非常に不安定な要素がどんどん増えると聞いていて、いざスタートというときに、世界の情勢はわかりません。そういうことを考えると、「なぜ台湾」というところは感じます。

ただ、事前調査で行くのは間違いありません。台湾に行って、どこでどういう学びができるのかを下調べしてもらいたいなと思っています。

それと、垂水高校の創立100周年記念事業です。

これも大きなところでいうと、永瀬社長が見えるということや林修さんが講演会するというようなことも今日記者発表されていました。

それと、給食、昼食の提供に向けての総合的な学習の時間を、さらに充実させて、早ければ、垂水高校の昼食提供を令和7年度の3学期にというようなタイムスケジュールで話が進んでいます。

あと、ご存じの鹿島シェフ、このコラボの調理教室を私どもも観にいつ

教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長 7 閉 会	たのですけれども、なかなかいい取り組みだなというのを感じました。 今後また、これを1つの事業として展開していけたら、生活デザイン科への希望者も増えるのかなということも感じたところでございます。 最後に、年度の終わりが近づいてきて、子供、先生方の指導をしっかりとお願いしたいというところを今日の教頭研修会でもお願いしたところでございます。 子供たちが胸を張って、次の学年に、あるいは学校に進んで行って欲しいなということを、今、非常に感じているところでございます。 以上でございます。 1月11日から2月12日までの主な行事等について各課長が報告。 併せて、2月13日から3月11日までの行事予定についてお知らせした。
--	--